

里村穰の国語科（第5学年）研究計画

1 本研究の位置付け

本研究では、第5学年国語科「読むこと」での説明的な文章（以下、説明文）を教材とした学習において、**筆者の伝えたいことが何であるかを考え、自分の考えをもつ子ども**を目指す。「筆者の伝えたいこと」とは、説明文における要旨である。本研究では、要旨を「書き手の考えの中心となる事柄」とする。「自分の考え」とは、要旨に対する自分の考えである。

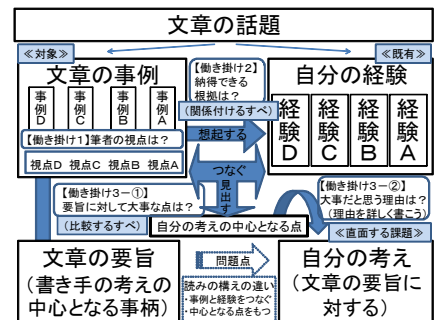
学習指導要領第5学年及び第6学年の「C読むこと」(2)内容の①指導事項ウでは、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」とある。要旨をとらえるだけでなく、自分の考えをもつことも求められている。

これまで、説明文の学習において要旨をとらえさせる学習は行われている。その多くは、形式段落の要約をし、要約した内容をつなげて意味段落にまとめ、意味段落の内容から要旨へとまとめている。この学習で、文章の要旨をとらえさせることはできる。しかし、要旨に対する自分の考えをもてないでいる子どもの姿もあった。その原因は、読みの構えの違いにある。説明文を読み進める際に、子どもは、文章の内容や要旨を読み取ろうとする目的で読む。このまま、要旨に対する考えを問われても、子どもは考えがもちづらい。自分の考えをもつために読み、自分の考えの中心となる点や、考えの理由や根拠をもたせることが必要である。

本研究で目指す子どもの姿となるためには、要旨を基に事例の中から筆者の考える視点をつかみ、この視点を手がかりに関係付けるすべを用いて事例と自分の経験とを結び付けること、複数の事例と、事例と結び付けた自分の経験とを、要旨を視点到比較するすべを用いて整理・分析しながらつなぎ、自分の考えの中心となる点を見出させることが必要である。

筆者の伝えたいことは何かと考えながら読み、読み取った要旨を基に、自分の経験を根拠として、自分の考えの中心となる点を見出すことで、子どもは、要旨に対する自分の考えをもつ。

《研究のイメージ図》



2 主張する働き掛け

単元を貫く言語活動を、要旨に対する自分の考えをもとうと文章を読む活動とする。

単元の導入では、題名読みを行う。題名から文章内容や筆者の伝えたいことを予想させることで、子どもは、教材文に対して興味をもち、教材文を読みたいという意識になる。ここで、教材文を提示し、教材文の内容を全体で確認していく。その後、文章を大きく3つの部分（序論・本論・結論）に分けさせることで文章の構成をおさえ、筆者の主張となる一文と話題提示の文、本論の事例とのつながりを検討させることで、文章の要旨をつかませる。

要旨をつかんだ子どもに、「なぜ、筆者は、この考えを伝えようと思ったのか」「筆者の伝えようとする考えの内容は、何であるのか」と学習課題を提示することで、子どもは、要旨を対象とした問いをもつ。このような問いをもった子どもに、以下の働き掛けを行う。

働き掛け1

筆者は、要旨に対する事例で、どの点を伝えようとしているのかを検討させる。

事例と自分の経験とを結び付ける手がかりとする、筆者の考える視点をつかませる働き掛けである。子どもに、「要旨につながる事例の中で、筆者が伝えようとしている点は何だろう」と問い、全体で検討させる。複数挙げられている事例一つ一つを検討させていく。子どもは、それぞれの事例を読み返し、その内容から考えて、事例の中にある言葉そのものを伝えようとする点としたり、事例の中にある言葉と言葉を関連付け、新たな言葉に変換して伝えようとする点としたりする。要

旨を基に事例の内容を考えさせ、「伝えようとしている点」と焦点をしぼることで、子どもは、筆者の考える視点をつかむ。子どもの発言で出された言葉を、「筆者の考える視点」として板書にまとめる。それぞれの事例から、筆者の考える視点をつかんだ子どもに、次の働き掛けを行う。

働き掛け2

それぞれの事例が納得できるかを判断させ、納得できると判断した根拠を問う。

教材文の事例を、筆者の考える視点を手がかりに自分の経験と結び付けさせ、自分の考えの理由や根拠をもたせる働き掛けである。子どもに、「それぞれの事例は、自分にとって確かにそうだと納得できるか。納得できる根拠は何か」と問う。筆者の考える視点を手がかりに事例内容を納得できるか判断させ、納得できる根拠を問うことで、子どもは、これまでの自分の経験を想起し、事例に書かれている内容が自分の経験上にもあり、「確かにそのようにいえる」と、納得した根拠として自分の経験をもち出し、関係付けるすべを用いて事例と自分の経験とを結び付ける。根拠を発表させ、全体に返すことで、自分の経験を想起しづらい子どもにも、似たような経験がなかったかを考えさせる。事例と自分の経験とを結び付けた子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け3

要旨に対して自分が大事だと思う事例を選択させ、選択した理由を記述させる。

要旨に対する自分の考えの中心となる点を見出させる働き掛けである。子どもに、「複数の事例の中で、要旨に対して自分が大事だと思う事例はどれか」と問い、選択させる。子どもは、**要旨を視点に、比較するすべを用いて複数の事例と事例と結び付いた自分の経験とを整理・分析してつなぎ、自分の考えの中心となる点を見出す。**自分が大事であると選択した事例には、筆者の考える視点がある。この視点が、子どもの中での要旨に対する自分の考えの中心となる点となる。また、子どもが大事だと判断する根拠は、その事例と結び付いた自分の経験である。自分の経験を根拠として自分の考えの中心となる点を見出した子どもは、要旨に対する自分の考えに見通しをもつ。

見通しをもった子どもに、「その事例を選んだ理由を詳しく書こう」と指示することで、子どもは、事例に結び付けた自分の経験を理由や根拠に挙げながら、要旨に対して、見出した自分の考えの中心となる点を用いて要旨に対する自分の考えを記述する。

このように記述した子どもが、**筆者の伝えたいことが何であるかを考え、自分の考えをもつ子ども**である。

3 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、類似した既存の知識や経験をつなぐことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3において、想定した比較するすべを使って、要旨を視点に複数の事例を整理・分析し、課題解決に重要な事柄である自分の考えの中心となる点を見出せたかをワークシートの記述内容から検証する。
- ② 働き掛け3の後で、要旨に対して自分の考えをもつことができたかをワークシートの記述内容から検証する。

4 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(6月) 「森林について考えよう」(10時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「インスタント食品について考えよう」(8時間)
- (3) 部内研究授業(10月) 「説明文の秘密～ゆるやかにつながるインターネット～」(6時間)
- (4) 部内研究授業(11月) 「説明文の秘密～言葉のちから～」(6時間)
- (5) 初等教育研究会(2月) 「説明文の秘密～白神山地からの提言～」(12時間)